

(2) はたらくへんじのよさをかたじけなく

P.130~137

4-(2)

働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、仕事に対する誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立とうとする心をもった児童を育成することを目指すものである。特に、低学年においては、みんなのために働くことを楽しいと感じている児童が多いため、その実態を生かして、働くことのうれしさや、やりがいなどを感じられるようにすることが大切である。

そのため、一三〇・一三一ページには、勤労に関わる多様な場面を想起することができるような写真、一三二ページには、当番活動について書かれた作文、一三三ページには、みんなのために仕事をしたことや仕事を頑張ったときの気持ちを書くための書き込み欄がある。読み物資料も含め、これらのページを通して、働くことで人の役に立つ喜びに気付かせ、みんなのために進んで働くこととする態度を育てていくことができる。

2 活用のポイント

低学年の段階では、学校の清掃や給食などの当番活動、家庭や地域での決められた仕事など、実際の場での働く意欲や態度に結び付けられるように活用していくことが重要である。

そのため、道徳の時間だけでなく、学級活動などでも活用し、多様な場面で働くことのよさや役立つことこのうれしさを感じられるように指導していく必要がある。

3 活用場面例
道徳の時間

日常生活の様々な場面でやっている勤労に関わる場面を想起する際に、一三〇・一三一ページを活用することができる。

また、みんなのために働くことのよさを感じ取るための資料として、一三二ページを活用することができる。



P.130~131

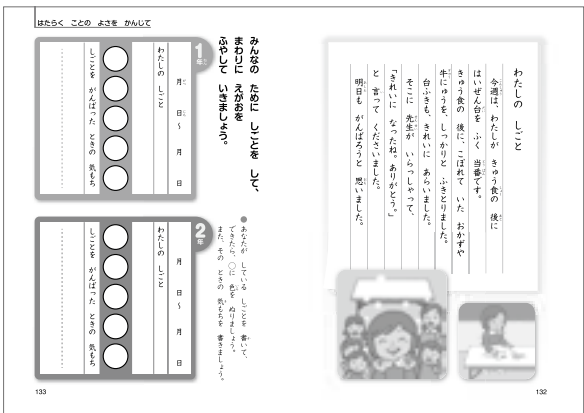
事例

- ① 一三〇・一三一ページを活用して、児童が日常生活で行っている様々な勤労に関わる場面を想起する。
- ② 読み物資料「森のゆうびん屋さん」を読んで話し合う。
- ③ みんなのために働いてよかったと思った経験とそのときの気持ちを振り返って話し合う。
- ④ 一三二ページの作文を紹介し、これからもみんなのために働こうとする意欲や態度につなげるようにする。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容

「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」の指導に当たって、一三二・一三三ページを活用することができる。また、内容「(1) 学級や学校の生活づくり」の「イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」の指導に当たっ



P.132~133

て、この内容項目のページを関連させて活用することもできる。

事例

- ① 一三二ページを読んで、自分たちが行っている当番活動等について話し合う。
- ② こうした当番活動等がなぜ必要なのかについて話し合う。
- ③ 一三二ページを活用して、期間を決めて、仕事に取り組んだことや頑張ったときの気持ちを話し合う。
- ④ 自分が、今後、特に頑張りたい当番活動等について、どのようなやり方で頑張りたいのかを決めて、実践する。

家庭との連携

みんなのためにしたい仕事の内容や期間を設定して、継続的に取り組むようにする。仕事をしたら、一三三ページの○に色を塗ることで、働くことで役に立っているという実感を視覚的に捉えることができる。

また、どのような仕事をしてどのような気持ちになったのか、家の人に話をし、励ましの言葉や感想などをもたうようにする。家庭と連携して、進んで働くこととする意欲を高めていくようにしたい。

1 資料の特性

森の郵便屋さんであるくまさんの働きに、森のみんなは喜びを感じ、配達を心待ちにしている。郵便が無い日でも、森のみんなと話をしたり、他の森の様子を伝えたりにしてくれるので、くまさんがやってくるのを、誰もが楽しみにしている。

雪の日でも、くまさんは山の上のやぎじいさんの喜ぶ顔を思い浮かべながら、荷物を配達する。一日の仕事を終えたくまさんの家に、森のこりすからお礼の手紙が届けられていたという内容である。

みんなのために働くくまさんの気持ちを考えさせることで、働くことのよさを感じさせるとともに、みんなのために働くこうとする意欲を高めることのできる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、くまさんに共感させてみんなのために働くことのよさを考える展開と、他の動物に共感させて働くことがみんなの役に立つことを考える展開が考えられる。

みんなのために働くことで役に立つ喜びやうれしさを感じている気持ちを考えさせたり、それを受けた相手の気持ちを考えさせたりすることで、単に自分が生活して

⑤身の回りで、みんなのために働いてくれる人をゲストティーチャーとして招き、働くことに対する思いを聞く。

◎ゲストティーチャーの活用

家庭や地域の人など、身の回りには仕事に誇りと喜びを見だし、みんなのために働いている人がたくさんいる。そうした人たちの仕事に対する思いを直接聞くことで、働くことの意義や役割を理解し、働くことのよさを実感させることができる。

事例②

働くことがみんなの役に立つことについて考える展開

【主な学習】

- ①一軒一軒、声を掛けながら配達をしているくまさんを見て、森のみんなはどのようなことを思っていたのか。
 - ・ ありがとう。本当に助かるよ。
 - ・ くまさんの働きのおかげで、みんなが喜んでいるよ。
- ②雪の日に小包を届けてくれたくまさんを見て、やぎじいさんはどのような気持ちだったのか。
 - ・ ありがとう。こんな雪の日に大変だったでしょう。
 - ・ 雪の日にもかかわらず、こんなにみんなのために働

いくためではなく、その仕事のよさを感じながら、みんなのためにやりがいをもって働いている思いを感じ取らせるように指導していく必要がある。

3 展開例

【ねらい】

働くことのよさを感じて、みんなのために働くこうとする意欲を高める。

事例①

みんなのために働くことのよさについて考える展開

【主な学習】

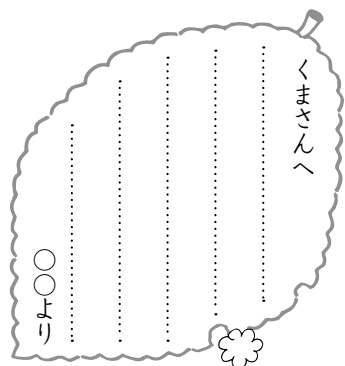
- ①くまさんは、どのような気持ちで一軒一軒、声を掛けながら、配達をしていたのか。
 - ・ みんなのために働くのは楽しいな。
 - ・ みんなから元気をもらえるよ。
- ②「ありがとう、くまさん。」とやぎじいさんに言われたとき、くまさんはどのような気持ちだったか。
 - ・ 雪の日でも、無事に届けることができよかった。
 - ・ やぎじいさんの役に立つことができうれしい。
- ③森のこりすからの手紙を読んでいるとき、くまさんはどのようなことを思っていたのか。
 - ・ みんなのために働いて、本当によかったな。
 - ・ これからも、もっとみんなのために働いていきたい。
- ④みんなのために働いてよかったと感じたことはあるか。そのとき、どのような気持ちだったか。

- ③森のこりすは、どのような思いを込めてくまさんに手紙を書いたのか。
 - ・ いつも一生懸命働いてくれて、ありがとう。
 - ・ 仕事を頑張るくまさんは素敵だな。
 - ・ みんなのために働いてくれてありがとう。
- ④自分がみんなのために働いていることについて、くまさんへの手紙を書く。

◎ワークシートの工夫

自分がみんなのために働いていることについて、くまさんへの手紙を書く際に、読み物資料と関連させて、木の葉の形のワークシートを活用することができる。

働くことについての思いを伝えようとする意欲を高めるための低学年ならではの工夫である。



(3) 家族のやくい立ちひんじを

P.138~143

4-(3)

父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。

1 この内容項目のページの特徴

低学年においては、父母、祖父母の思いを知ること、敬愛の念を育てること、家の手伝いなどを行って積極的に家族と交わり、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにすることが求められている。

そのため、一三八・一三九ページには、家族の温かさを感じ、敬愛の念を深めることができるような内容が、そして、一四〇・一四一ページには、家の手伝いをして家族の一員として役に立つ喜びを感じることもできる読み物コラムがある。また、一四二・一四三ページは、家の手伝いをしたことやそのときの気持ちを書き込むことができるようになっており、これらのページを活用して、家族の一員として進んで役に立つとする意欲を高めることができる。

2 活用のポイント

本内容項目のページを活用して、作文や読み物コラムなどを読んで父母、祖父母への敬愛の念を深めたり、家の手伝いをしたことを振り返って、家族の役に立つ喜びについて感じ取ったりすることができる。その際、多様な家族構成や家庭環境があることを踏まえ、十分な配慮を欠かさないようにする。

3 活用場面例

■ 道徳の時間

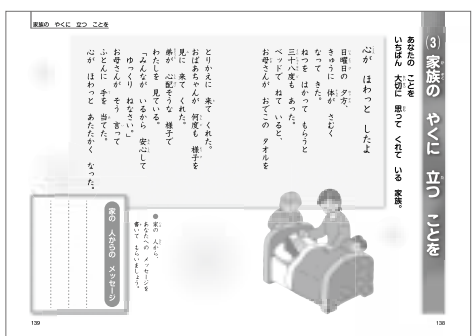
一三八・一三九ページ「心がほわっとしたよ」の資料を活用するに当たっては、イラストや「おばあちゃんが何度も様子を見に来てくれた」の「何度も」という言葉を捉えて「わたし」のことを思う家族の気持ちを感じ取らせ、父母、祖父母を敬愛する気持ちを養っていくことに重点を置くようにする。

また、一四〇・一四一ページの読み物コラム「家族のためにできることはないかな」を活用するに当たっては、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知ること、重点を置くようにする。家族のために家の手伝いをした児童の体験と関連付けて指導することができる。

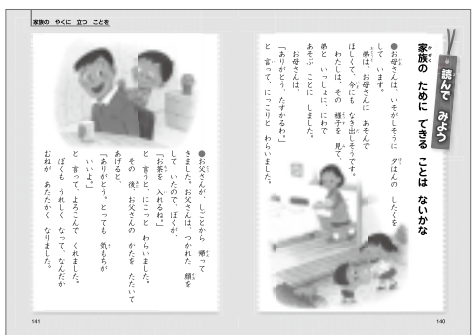
事例①

- ① 病気のとき、家族の世話になったことなどの出来事を発表する。
- ② 「心がほわっとしたよ」を読んで話し合う。
 - お母さんやおばあちゃん、弟はどのような気持ちで看病しているか。
 - 看病されている「わたし」はどのようなことを思っているか。

③ 家族に世話になっていたりすることや家族のことをどのよう
に思っているかを振り返る。



P.138~139



P.140~141

事例②

- ① 家族のためにする仕事にはどのようなことがあるか。
- ② 「家族のためにできることはないかな」を読んで話し合う。
 - 弟と一緒に庭で遊ぶことに決めたのは、どのような考えからか。
 - お父さんのために、お茶を入れたり、肩をたたいたりしたのは、どのような気持ちからか。
 - お母さんやお父さんの言葉を聞いて、どのようなことを思ったか。

③ 家族のことを思ってしまったこと、どのよう
なことがあるか。

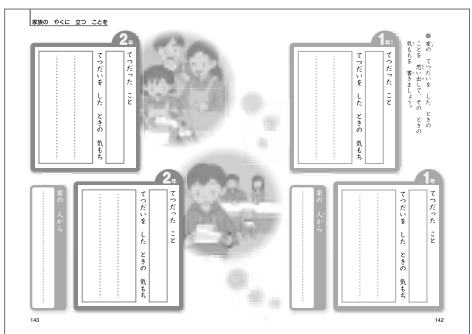
■ 家庭との連携

本内容項目は、日頃の父母や祖父母の様子を知ることから敬愛の念を育て、家の手伝いなどを行って家族の一員として役に立つ喜びを実感できるように指導していくことが大切である。

一四二・一四三ページを活用して、家族の役に立つことをして、家族が喜ぶ気持ちを感じ取ることができるようにしたい。

事例

- ① 家の手伝いなどをしたときのことを、一四二または一四三ページの書き込み欄に書く。手伝いをしたときの気持ちを家の人に伝える。
- ② 一四二または一四三ページの「家の人から」の欄に、家の手伝いなどをした児童への励ましの言葉や、家の人の気持ちを書いてもらい、家庭で見交差をする。



P.142~143

4 みんなとともに

(4) 学校の生活を楽しく

P.144~149

4-(4)

先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学級や学校の集団や生活に関して、道徳の時間だけでなく、様々な教育活動と関連させながら指導を行っていくようにしたい。

一四四・一四五ページには、学校の見取り図を基に、学校でいろいろな人の世話になっていることを思い出させる内容があり、また、一四六・一四七ページには、学級や学校での自分の役割と責任を自覚して、よりよい学校をつくらうとする意欲を高めていくような内容がある。また、学校の好きな場所や学校での楽しかったことなどを書き込めるページが、一四八・一四九ページにある。

これらのページを活用して、様々な教育活動との関連も図りながら、学級や学校での生活を自分たちで楽しくしようとする態度を育てていくことができる。

2 活用のポイント

よりよい学校をつくらうとする思いは、学級や学校での様々な活動を通して深まっていくものである。したがって、学校生活のどのような場面でもどのような人の世話になっているのかについて思い出させるようにする。その上で、学級や学校の生活を支えてくれている人に親しみ、学級や学校の生活を楽しくしようとする態度を育てていくようにしたい。

分の考えを書き込む。

④ 記入したことについて話し合い、自分の学校への愛着を深める。

生活科

生活科の内容「(1) 学校と生活」に関する指導に当たって、一四四・一四五ページを活用することができる。学校の中の好きな場所や好きな勉強などの学校生活について記入することで、学校生活を支えてくれている人がいることに気付き、楽しい学校生活を送ろうとする意欲を高めていくようにしたい。

事例

- ① 一四四・一四五ページのイラストや写真と自分の学校とを比べながら、学校の施設や先生、友達への関心を高める。
- ② 学校を探検しながら、学校で世話になっている人たちに、どのようなことを思っているか質問し、一四五ページの書き込み欄に記入する。
- ③ 探検後、聞き取ったことを基に、学校で世話をしてくれている人たちはどのようなことを思っているのかについて話し合う。

特別活動(学級活動)

学級活動の内容「(1) 学級や学校の生活づくり」の「イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」の指導に当たって、自分の考えをもって話し合いに参加したり、自分の考えを書き込んだりすることで、学級のために役立つようとする意欲を高めていく。

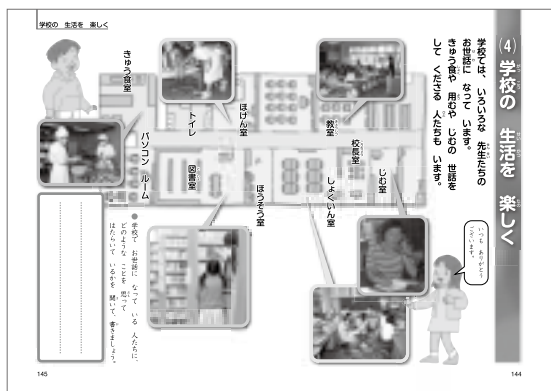
3 活用場面例

道徳の時間

生活科の「学校探検」などの学習と関連付けながら、学校の中の好きな場所や好きな勉強、楽しかったことなどをまとめさせるようにする。一四四・一四五ページ、また、一四八・一四九ページは、学校の施設や働いている人々に親しみ、学校への愛着を深める際の資料として活用できる。

事例

- ① 一四四・一四五ページを見ながら、生活科で学習したことを振り返り、自分の学校について話し合う。
- ② 読み物資料を読んで、話し合う。
- ③ 一四八または一四九ページに、好きな場所、好きな勉強、好きな給食について自



P.144~145

事例

- ① 一四六・一四七ページの写真を見て、学級をよりよくするための活動には、どのようなことがあるのか話し合う。
- ② 「学校や学級のためにみんなができること」について、一四六または一四七ページに書き込んで、話し合う。
- ③ 「学校や学級のためにみんなのできること」について、みんなの意見をまとめ、実際に役割分担をする。
- ④ 学級で話し合ったことを家の人に伝え、家の人から意見をもらう。

家庭や地域との連携

一四六または一四七ページに書き込んだことを家の人に見せて、学級や学校のよさ、学級や学校のためにできることについて、家の人に伝え、家族とのコミュニケーションを図りながら学級や学校への愛着を深めることができる。

また、公開授業などの機会を利用し、地域の人にも学級や学校のよさなどを伝える活動を広げていくことで、学級や学校への愛着を一層深めていくことが期待できる。

事例

- ① これまでの学校生活の中で楽しかったことなどを振り返り、一四八または一四九ページに記入する。
- ② 学校の地図の周りに一人一人が書いた、学校生活の中での楽しかったことや好きな場所などを貼り、「学校大好きマップ」を作成する。
- ③ 校内や教室に「学校大好きマップ」を掲示し、家庭や地域の人に見てもらって、感想や励ましの言葉をもらう。

4 みんなとともに

(5) ふるさとに親しみをもって

P.150~157

4-(5)

郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

郷土との関わりに関して、郷土の伝統と文化を大切に愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。地域には、その地域を愛し、伝統や文化を大切に受け継いでいる人々がいる。低学年の児童は、その発達の段階から、それらのことをあまり意識していない場合がある。

そこで、一五〇・一五一ページを活用して、イラストを見ながら、自分の町の施設や伝統、そこに暮らす人々の思いについて考えたり、一五二・一五三ページに自分の町を紹介する新聞を書いたりして、自分が住んでいる地域の文化や生活に親しみ、郷土への愛着を深めていくようにしたい。

2 活用のポイント

低学年の児童は、生活科の学習や放課後の遊び、地域の行事等を通して、家庭や学校を取り巻く郷土に目を向けるようになる。この段階では、実際に郷土の自然や文化に触れたり、人々と触れ合ったりする体験を生かして指導をしていくことが大切である。

地域に関わる体験は、一人一人違っている。そこで共通の話題として取り上げられる郷土の文化など一つ一つ

自分たちの町の伝統やそこに暮らす人々などについて具体的に思い出し、自分との関わりで、郷土のことを考えるようにする。

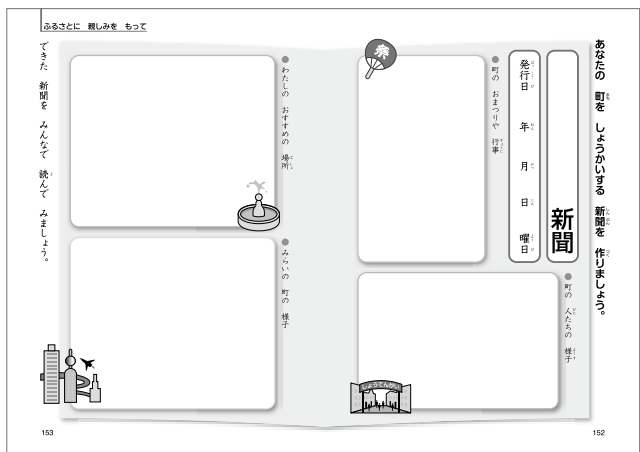
事例

- ① 一五〇・一五一ページを見て、自分たちの町のことを考える。
- ② 読み物資料「ぎおんまつり」を読んで話し合う。
- ③ 自分たちの地域の好きな所とその理由を紹介し合う。
- ④ ゲストティーチャーターの話聞く。

児童が参加する祭りを主催するリーダーなどに地域を大切に思う気持ちを語ってもらう。

生活科

生活科の内容「(3) 地域と生活」に当たって、一五二・一五三ページを活用することができる。



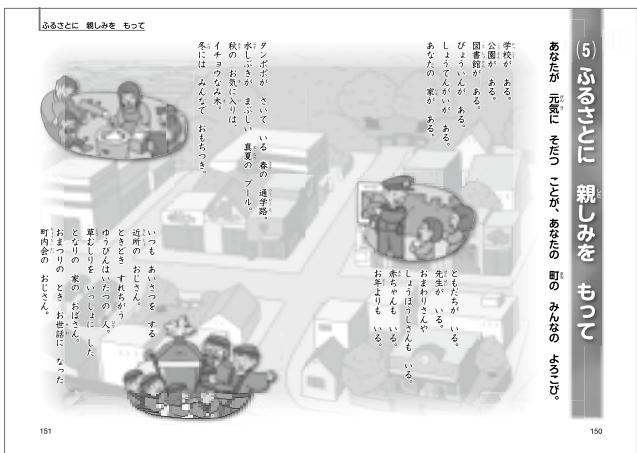
P.152~153

の事柄に関心をもたせ、郷土の文化や生活に親しみがもてるよう指導していく必要がある。一五〇・一五一ページには、話合いのきっかけとして、「地域の施設」「地域に暮らす人々」「自然」「自分を支え、見守ってくれている人々」に分けて町のことを紹介されている。この一五〇・一五一ページを参考にして、自分たちの「地域の施設」「地域に暮らす人々」「自然」「自分を支え、見守ってくれる人々」について振り返り、郷土への愛着を深めていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一五〇・一五一ページを活用して



P.150~151

事例

- ① 自分たちの町のことを見つめて、町の祭りや行事、町の人々の様子やお薦めの場所などを絵や文章で表し、「町新聞」を書く。
- ② 「町新聞」を使って自分の好きな場所などを発表し合い、「町探検」への意欲をもつ。
- ③ 「町探検」をする。
- ④ 町の様子、人々やその生活などについて、発見したことや感じたことを話し合い、「町新聞」に書き加えたり、別のワークシートなどにまとめたりする。

家庭や地域との連携

生活科などで書いた一五二・一五三ページの「町新聞」を校内や学級に掲示する。

家庭や地域の人などに、「町新聞」への感想を付箋に書いてもらって、それぞれの「町新聞」に貼ってもらうようにする。

地域の人に見守られていることを実感させるとともに、より一層、地域への愛着を深めていくようにする。

日常生活

生活科の学習の後などに、係活動として、例えば、新聞係が一五二・一五三ページを活用して町のことを紹介する活動を行うように促すことも考えられる。

なお、係活動は、児童が自主的に行う活動であることに配慮する必要がある。

1 資料の特性

一か月も前から、祇園祭のためにお囃子を習っていた「ぼく」。「やめたい」と思う日もあったが、祇園祭を守ってきた人々の思いを聞いて、頑張ることにした。祭りの日、「ぼく」の乗ったほこが曲がり角で、倒れそうになる。しかし、みんなの気持ちが一つになって無事に曲がる事ができて、見物している人たちから拍手と歓声をもらう。見物客も一体となって、祭りを盛り上げる様子に、「ぼく」はうれしい気持ちを感じる。

地域が大切にしてきた伝統や文化、そこに生きる人々の思いについて考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用に当たっては、町が一体となって祭りを盛り上げる様子を感じて、「ぼく」がどのように思ったのか郷土の文化との関わりについて考えさせるようにしたい。

なお、児童が実際に暮らす地域を振り返ることが大切な学習であるので、自分のことを振り返る時間を十分に確保することが重要である。児童が自分のこととして振り返ることができるよう、児童が住む地域の施設、文化財、行事、自然、商店街、人々などの写真を提示することも効果的である。

④自分たちの地域の好きな所はどこか。また、その理由は何か。

◎ゲストティーチャーの活用

地域の場所や行事だけでなく、地域の人にも広げて郷土のことを考えさせるために、地域を愛し、活動している人の話を聞くようにする。

事前に撮っておいた地域の映像を提示しながら、触れ合いや感動を大切にした演出を工夫し、郷土への親しみや愛着をより感じられるようにする。発問を精選して、生活の振り返りやゲストティーチャーが語る時間を確保するようにしたい。

事例②

自分たちの地域のことを振り返って、地域との関わりを深める展開

【主な学習】

①「お父さんも、よくおじいさんにしかられながら、れんしゅうしたものだ。みんな、そうやって、千年もつづくぎおんまつりをまもってきているんだよ。」という言葉を聞いて、「ぼく」は、どのようなことを思ったのか。

3 展開例

【ねらい】

郷土の文化や生活に親しみをもち、進んで地域に関わっていくようにする態度を育てる。

事例①

ゲストティーチャーを活用して、郷土の文化や生活への親しみを深める展開

【主な学習】

①ほこがうまく曲がれて、見物している人たちから拍手が起こったとき、「ぼく」はどのようなことを思ったか。

・みんなで力を合わせるってすごいな。倒れなくてよかった。

・見物している人がこんなに喜んでくれてうれしい。

・ほこに乗っていることがうれしい。頑張ってお囃子の練習をしてきてよかった。

・自分たちの町にはいいお祭りがあってよかった。これからもずっと続いていくように、僕も頑張ろう。

②千年続く祭りを知ったとき、「ぼく」はどのようなことを思ったか。

・そんなに昔からやっているのか。すごいお祭りだな。これからも続いていくようにしたいな。

・お父さんも、おじいちゃんに教わったんだ。僕もお父さんになったら、自分の子供に教えるのかな。

③自分たちの郷土の伝統や文化について、ゲストティーチャーから話を聞く。

・千年も続いているなんて、すごいお祭りなんだな。僕も頑張ってこのお祭りを守っていききたいな。

・祇園祭は、僕たちの町に長く伝わる大切なお祭りなんだな。これからも、お祭りに関わっていききたい。

②自分たちの地域の自然や文化など、郷土のすばらしいと思うところを紹介し合う。（出された事柄に沿って、地域の施設や文化財、行事などの提示用の写真を見せるようにする。）

③一五二・一五三ページを活用して、町を紹介する新聞を作ってグループで交流する。（完成した新聞を学級通信や地域便りなどに掲載して、家庭や地域に紹介することもできる。）

